

2024年度

第2回
学校関係者評価委員会報告書

於：令和7年2月
学校法人長野県理容美容学園
松本理容美容専門学校

第2回学校関係者評価委員会 報告書

日 時：令和7年2月27日（木） 13：30～15：30

場 所：松本理容美容専門学校 校長室

出席者：今井物産株式会社 代表取締役 五味先生

株式会社アーク 代表 竹松先生

小原校長・桐山事務局長・小口教務主任

○小原校長より

職業実践認定校として、委員の皆さんから、客観的な意見をいただき、前進することが出来ている。

令和7年度理容科入学生16名と増加した。要因として、メンズスタイルの流行、フェードカットなど。

またダブルライセンス取得も魅力の1つとなっている。資格取得への熱意の高い学生が増えてきている。

引き続き、求められる学校となるよう、努力していきたい。

今後もより一層ステップアップしていきたいので、忌憚ないご意見を出して頂きたい。

【議題】

1. 令和6年度第2回自己評価委員会報告

令和6年度報告として、教育理念の2項目・学校運営の3項目・教育活動の2項目・学修成果の3項目・学生支援3項目・教育環境の1項目・学生募集と受け入れ2項目・社会貢献の1項目について、評価4について継続的に向上した部分の報告と今後の対策について細かく説明を行い、対策方法等について意見交換を行った。

評価4を、今まで以上により内容の濃いものにしていく必要がある。

また、評価4から評価3に下がった理由についても説明を行った。向上できるよう努力していく。

公平な評価を今後も継続していくべきである。

各項目一つずつ細かく評価できていることが、次へと繋がっていくのでは。今後第三者評価という形式になった場合においても、大丈夫な体制が整っているのでは。

公平な評価を今後も継続していくべきである。

（基準1）

- ・令和7年度職員組織について、長野校への出向教員は松本校に戻り、職員組織に加えて編成していく。
- ・引き続き、教職員希望者を注視しながら職員組織の充実を図る。
- ・学園の令和7年度～9年度までの、3カ年計画に、両校の「自己点検・自己評価報告書」の点検事項を関連付け、両校の現状把握と改善項目の共通認識に役立ていく。
- ・令和6年度理美容師国家試験の指導について、2月の実技試験対策と同時に筆記試験問題への対策を強化している。感染症対策と共に、低位生への学習機会を充実させている。
- ・ネット出願を含めた、入学試験への手続き方法は概ね理解が浸透している。
また、入学前納入金への理解も進み、辞退者の減少となっている。
- ・令和7年度理容科への入学希望者が16名に増加した。要因としてメンズビューティに関する流行・意識の高まりと、通信修得者課程を利用した、理美ダブルライセンス取得機会が功を奏しているものと思われる。

学校関係者評価委員コメント 五味委員より

- ・理容科が増加したことは、将来的に楽しみである。

学校関係者評価委員コメント 竹松委員より

- ・素晴らしい教育理念である。引き続き魅力ある学校にしていってほしい。

今後の改善方策

- ・第9次3ヶ年計画を踏まえて意見を頂きたい。
- ・理容科教員不足である。

(基準2)

- ・令和7年度の修学旅行について、理美容科は「表参道コレクション」と「ディズニーランド」を計画している。BB科は全国コンテストの日程が重なったため、長野校と共に別日の日程で「エステ体験」と「ディズニーランド」の計画を進めている。
- ・コロナ禍以降の現状を踏まえた、「危機管理マニュアル」の見直しを進めていく。
- ・「学生指導内規」「学校生活の心得」の見直しを両校の現状に合わせて見直していく。
- ・理容科1名美容科1名計2名の教師が、9月に教育センター「文化論」の資格を取得した。
- ・美容科1名の教師が、11月に教育センター「まつ毛エクステンション」の資格を取得した。
- ・ビューティビジネス科1名の教員が、シュウウエムラメイクアップ技能検定を取得し、学内認定講師となった。

学校関係者評価委員コメント 竹松委員より

- ・資格取得として、時代に合った内容にしていくべきである。ヘアケアマイスター取得は必要である。カラーやパーマ技術をやる上で、毛髪理論は大事な部分である。

学校関係者評価委員コメント 五味委員より

- ・資格取得をさせる際、サロン現場で活きる内容だと、伝えていくとより良いのでは。

今後の改善方策

- ・今後も在校生満足度に重点をおき、魅力ある学校づくりに力を入れていく。
- ・学生指導内規の見直しを行っている。通信制高校からの入学生が増加している。サロンに役立つ人材育成を主とする内容になるよう検討していきたい。

(基準3)

- ・令和6年度の取り組み全般の振り返りとして、職員の自己評価アンケートを実施した。職員組織としての強みと弱点を明確化して、結果を基にして令和7年度の目標設定に反映するように促している。
- ・令和6年度2月松本校において、美容組合との合同勉強会を開催する。(2/17)
- ・令和6年度3月学園研修会にて、寿教育支援センターより講師を依頼して、生徒指導に関する教職員研修を計画している。

学校関係者評価委員コメント 竹松委員より

- ・美容組合員は800名弱である。国家試験課題がわからないサロンも多い。通信生を受け入れているサロンに対して今後、勉強会も必要では。

学校関係者評価委員コメント 五味委員より

- ・学校支援サロン用のチラシを作成し、サロン向け勉強会を実施していても良いのでは。サロンに周知させることが出来れば、開かれた学校になっていくのでは。ディラーも上手く活用して欲しい。

今後の改善方策

- ・職員の振り返りをし、次の課題に気づき質の高い教育内容にしていきたい。技術を見る目がある人材を育成していく。→美容組合との合同勉強会を実施した。リカレント教育の必要性を感じている。業界に対しても開かれた学校にしていきたい。

(基準4)

- ・令和6年度第50回理美容師国家試験21期通信生の結果
受験者16名 合格者14名 合格率87.5% (学科不合格者2名)
- ・令和6年度
 - ①2年生サービス接客検定 受験者85名 合格68名 不合格17名 合格率80%
 - ②1年生INAネイル検定 受験者48名 合格45名 不合格3名 合格率93.7%
 - ③2年生准福祉理美容士 受験者82名 合格78名 不合格4名 合格率95.1%
 - ④2年生JNAジェルネイル検定 受験者21名 合格15名 不合格6名 合格率71.4%
 - ⑤1年生JMAメイクアップ検定 3級受験者56名 合格55名 不合格1名 合格率98.2%
 - ⑥1年生JMAメイクアップ検定 2級受験者47名 合格46名 不合格1名 合格率97.8%
 - ・理容科1年生スパニスト検定 受験者6名 全員合格
 - ・ビューティビジネス科
 - ① JNECネイリスト技能検定3級 受験者8名 合格7名 不合格1名 合格率85.7%
 - ② 日本アロマ環境協会アロマセラピー検定1級 受験者7名 全員合格
 - ③ シュウウエムラメイクアップ技能検定 受験者5名 全員合格
 - ④ JNAジェル検定初級 受験者7名 全員合格

令和7年2月1日現在

- ・退学者4名 (美容科2年生1名、1年生2名、BB科1年生1名)
- ・休学者9名 (美容科2年生2名、1年生5名 BB科1年生1名)
1年生、2年生共に学習意欲の低下や進路変更、精神衰弱が要因である。保護者連絡等も含めて、スクールカウンセリングを活用し個別の対応を工夫している。
- ・コンテスト対策としての、卒業生による技術指導が成果として結果に繋がっている。

学校関係者評価委員コメント 竹松委員より

- ・休学・退学者について、心の教育の大切さを感じている。初期教育が重要になっていくのでは。
- ・サロンのお客さんも高齢化になっているので、ホームケアについて必要な時である。

学校関係者評価委員コメント 五味委員より

- ・ホームケアセミナーは必要な時代である。
- ・生徒との距離が近く、常に寄り添っていることは、マツビの良い特徴である。先生と生徒の関係性は素晴らしい。寄り添えている学校である。

今後の改善方策

- ・学修成果が大事な部分である。合格率のみを求めるのも大事だが、受け入れた学生を大事に育て、社会で生き抜ける学生にしていきたい。
- ・学修保障→不登校の学生に対する対応方法も考えていく時代である。
- ・ホームケアセミナー授業の導入を前向きに検討していきたい。

(基準5)

- ・令和6年度「給付型奨学金」対象者1年生 12名 2年生 14名—15.1%
「学生支援機構奨学金」対象者1年生 31名 2年生 27名—30.9%
後期は休退学者が奨学金の対象者であったために、前期より減少した。
- ・10月に行われた第17回全国エステティックコンテストにおいて基礎部門1年生銀賞、応用部門2年生銀賞 2名により優秀な成果となった。
- ・10月に行われた、第16回全国理美容甲子園において理容科ワインディング部門銀賞 優秀な成果となった。
- ・令和7年度学生寮希望者 女子寮：11名 男子寮：7名
- ・今後の学生寮に関する運営については、学園3ヶ年計画の課題として、遠方からの入学動機を視野に入れより効率の良い方策を検討していく。
- ・新2年生対象の就職活動説明会実施。(2月7日)

学校関係者評価委員コメント 適切に行われている。

今後の改善方策

- ・就職活動内容が、変化してきているため、オンラインへの対応など、今後もより一層時代に沿った就活ができるよう、就職部と協力していく。
- ・今後も在校生満足度に重点をおき、委員の先生方のご意見を参考に、魅力ある学校づくりに力を入れていく。
- ・奨学金制度として、多子世代補償が令和7年4月より実施される。

(基準6)

- ・コロナ禍以降の現状を踏まえ、また昨今の自然災害を想定した「危機管理マニュアル」の見直しを進めていく。

学校関係者評価委員コメント 適切に行われている。

今後の改善方策

- ・今後も引き続き、在校生満足度を一番に考え、工夫していきたい。

(基準7) 総括：継続し学生募集に力をいれていく。

令和7年度学生募集については、多くの入学希望者を確保することができた。

ひとえに、伝統校としての信頼感に加え、学校の雰囲気良さ。先生たちが大切に学生たちを育成している点が選ばれた理由だと感じている。

今後はより一層県外流出防ぐ手立てと、時代に合った広報活動に力を入れていく。

令和 3年度入学者数 美容科 101名 理容科 2名 ビューティビジネス科 15名 合計 118名

令和 4年度入学者数 美容科 93名 理容科 7名 ビューティビジネス科 15名 合計 115名

令和 5年度入学者数 美容科 86名 理容科 9名 ビューティビジネス科 13名 合計 108名

令和 6年度入学予定数 美容科 78名 理容科 6名 ビューティビジネス科 9名 合計 93名

令和7年度入学予定数 美容科 93名 理容科 16名 ビューティビジネス科 10名 合計 119名

学校関係者評価委員コメント 五味委員より

- ・学生募集について、少子化であるため、大変な部分もあると思うが、前向きに努力して頂き安心している。素晴らしい学校である。入口から卒業まで。また、卒業後のサポート体制が整っている学校である。特色を活かして、引き続き頑張ってもらいたい。協力はしていく。
- ・マツビのアットホームな雰囲気は魅力であり、強みである。大切にしていってほしい。
- ・理容科増加については、嬉しい。サロン現場メンズブームである。良い時代の波に乗ってほしい。
- ・ビューティビジネス科学生数減少については、今現在エステブームではない。時代をとらえて内容を検討するべきである。

学校関係者評価委員コメント 竹松委員より

- ・パーマ・カラースタイルについて、サロン現場でも増加傾向である。おしゃれに敏感な若者が増えてきている。
- ・ビューティビジネス科については、メンズエステやメンズ脱毛に興味ある傾向であるため、男子入学も検討してみてもいい。学生がやりたい学びたい内容の枠を分散化してもいいのでは。
- ・細分化していった方が、入学希望者が増えるのでは。

今後の改善方法

- ・美容師としての職業の価値を向上していくため、学校と業界の連携を引き続き行っていきたい。
- ・学校の特色をきちんと伝えられるような広報活動をしていく。委員の先生方から頂いた意見を参考にし、前向きな方策を検討していく。
- ・令和9年より実施される通信制600時間を目安にトータルビューティコースの設置も検討していきたい。

(基準8) 継続して、問題なく実施できている。

学校関係者評価委員コメント 適切に行われている。

(基準 9) 継続して、問題なく実施できている。

学校関係者評価委員コメント 適切に行われている。

(基準 10) 継続して、問題なく実施できている。

学校関係者評価委員コメント 適切に行われている。

- ・中学生対象の職場体験は実施できている。サロンと学校との協力体制は構築されている。

2. 重点目標について (別紙 1 参照)

(1) 令和 6 年度重点目標実施報告

重点目標① 教職員の協力体制による指導力の向上

年度を振り返り、教職員の協力体制により学校運営を進めることができた。年間を通して、特に学校行事に関わる準備・運営・振り返りを教職員一丸となって取り組むことができた。

重点目標② 教師と講師との連携強化

各教師による自己評価からも、講師との連携については課題が残るが、学期末テストの結果から低位生への取り組みや情報共有を行うことで、多面的な学習指導に繋がっている。

重点目標③ 教師と生徒との距離感を意識する

教師と生徒の距離感の近さが、専門学校の強みと見ることができる。しかしながら、一定の節度や距離感は保つ必要がある。教師が教えるティーチングから、主体性を高め寄り添うコーチングへの切り替えが、教える側の行動変容として求められる時代である。引き続き、具体的な行動指針を加えて令和 7 年度の重点目標として組み入れる。

学校関係者評価委員コメント ・重点目標に対して、考え・方策が変化していることが大事である。

今後の改善方策

- ・昨年度より質の高い学校となるよう、全職員が共通意識のもと、1つ1つを大切に考え、具体的方策を協議しながらすすめていく。
- ・自己評価をすることの大切さを感じている。今後の目標設定をする良い機会となっている。

(2) 令和 7 年度実施目標 (別紙 2 参照)

重点目標① 授業計画に沿った準備・指導・振り返りの改善

- 本時の授業に合わせた「授業準備」を意識して、振り返りからの課題を明確にした解りやすい授業展開を工夫する。
- 「5 分前行動」として、早めの取り組みを日常的に意識する。

重点目標② 教師・講師・学生会との連携強化

- 嘱託講師との連携を強化して、低位生への手立てを工夫する。
- 嘱託講師の授業内容、授業計画を把握して、自らも学ぶ姿勢で関わっていく。
- 学生会やルーム長を活用した、当事者意識を喚起する授業姿勢の改善

重点目標③ 教師と生徒との距離感を意識する

- 「名字」での呼名を職員間で統一する。馴れ合いにならない節度を意識した言動によって、整然としたクラス運営・生活習慣を整える。
- 学年主任を中心として、生徒の現状把握を共有してチームティーチングを意識すると共に、学生自身の当事者意識を促すコーチングを実践する。

学校関係者評価委員コメント 五味委員より

- ・理美容業界・ディーラー・学校が上手く、協力し合い稼働していきたい。時代に合わせた教育。みんなで考え、実行していくしかない。

学校関係者評価委員コメント 竹松委員より

- ・継続していくことが大切である。地元サロンの協力体制がある学校。大きな特色になるのでは。

今後の改善方策

- ・昨年度より質の高い学校となるよう、全職員が共通意識のもと、1つ1つを大切に考え、具体的方策を協議しながらすすめていく。
- ・お客様に寄り添う事のできる人間力の高い人材育成に力を入れていく。

最終まとめ

- ・やるべきことを一つずつ丁寧に頑張っていってほしい。協力は惜しまない。
- ・教員募集のチラシを作成してもらえれば、配布可能である。

4. 次回予定

令和7年度第1回学校関係者評価委員会 令和7年7月25日（金） 13：30～